

1. 高齢者お達者プランの実績について
(2) 地域包括支援センターの運営における
令和7年度の実績について



加賀市健康福祉部介護福祉課

令和8年6月11日

地域包括支援センターブランチの設置及び地域福祉コーディネーター業務内容

①ブランチの主たる業務

○地域の身近な窓口として基幹型地域包括支援センター(直営)につながる

【事業内容】 地区の高齢者の個別相談、支援、個別の地域ケア会議等

【機能】 24時間365日の対応、必要時の訪問、緊急宿泊対応可能

②地域福祉コーディネーター業務の主たる活動内容

○友人、ご近所、世話焼さん、地域団体等の担い手とのコーディネートや個の支援を通し、地域づくりに繋げる

【事業内容】 地域資源の把握、開発、関係者間の情報共有、交流活動の開催支援

【機能】 高齢者と地域資源をマッチングするためのコーディネート機能

地域の地域福祉活動拠点等後方支援

目指すべき姿

①早めの出会いと身近で相談しやすい拠点

⇒地域で身近な相談体制やすぐに駆けつけられる体制

②どんな状態になっても地域で暮らし続けられる体制

⇒介護サービス利用有無にかかわらず「柔軟性」「緊急時対応」「訪問機能の充実」が必要

③地域での住民主体の生活支援の体制構築

⇒介護問題を地域住民が自身のこととしても捉えられるような、地域全体で支える仕組み、機会の創出(高齢者の社会参加できる人はたくさんいる)

◆地区はそれぞれ、住んでいる人の考えや風習、社会資源が異なる。その特徴を生かし、**住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるような地域**をつくることを目指す。

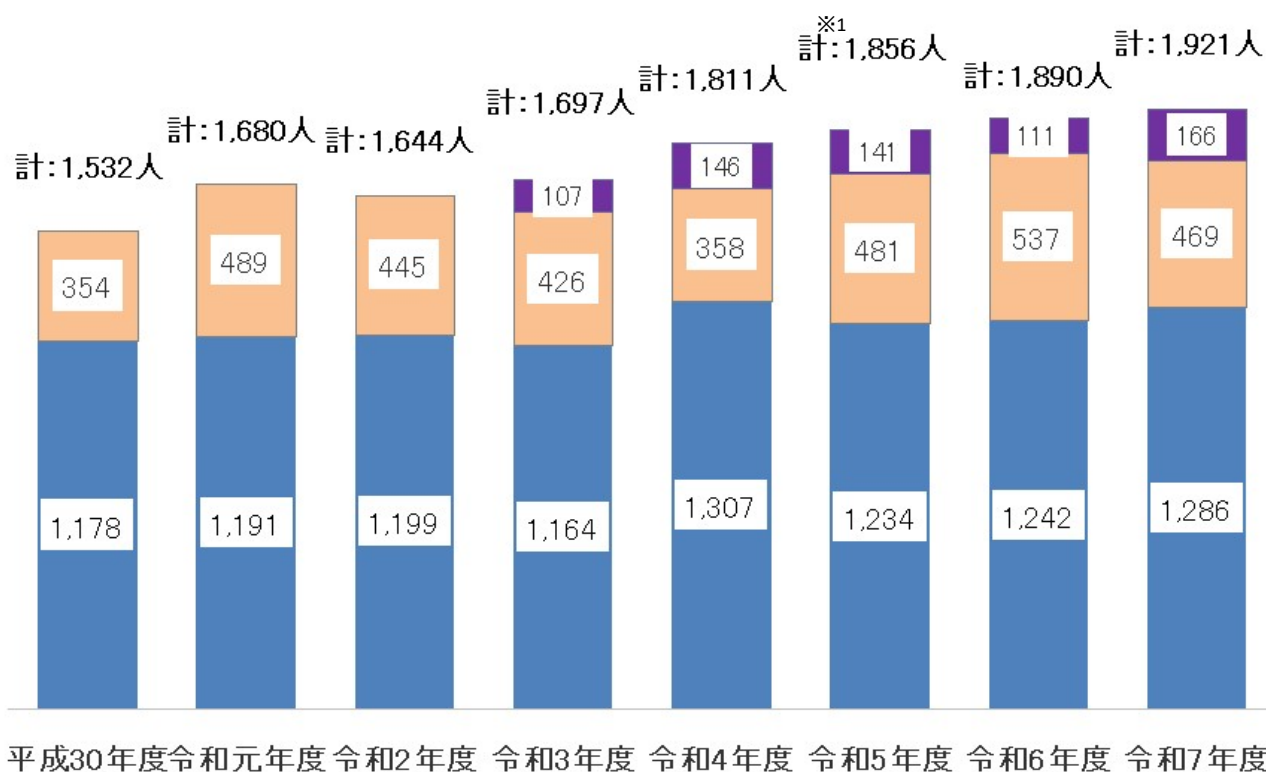


大聖寺地区	大聖寺なでしこの家 大聖寺番場町 29番地4 ☎72-1882 	南郷地区 上河崎町 才120番地 ☎75-7815 	作見地区	小規模多機能ホーム いらっせ松が丘 松が丘1丁目 17番地8 ☎72-2050 	動橋ひまわりの家 動橋町 イ19番地1 ☎74-1611 
	小規模多機能ホーム きょうまち 大聖寺京町 27番地 ☎76-5510 	三木・二谷・塩屋地区 グループホーム まどい 直下町 イ32番地1 ☎72-5220 		小規模多機能ハウス さくみ 作見町 カ132番地1 ☎75-3351 	分校地区 小規模多機能ホーム いらっせ分校 分校町 リ338番地1 ☎74-1301 
山代地区	山代すみれの家 山代温泉 八74番地5 ☎77-1505 	庄地区 小規模多機能ホーム いらっせ庄 庄町 ル167番地 ☎74-5650 	片山津地区 小規模多機能ホーム いらっせ湖城 湖城町3丁目 125番地 ☎74-8122 	橋立地区 小規模多機能ホーム はしたて 橋立町 イ乙54番地1 ☎75-7384 	
	二丁対馬型小規模多機能ホーム ききょうが丘 山代温泉 桔梗丘4丁目 1番地1 ☎76-3660 	勅使・東谷口地区 小規模特別養護老人ホーム ちよくし 勅使町 ル75番地1 ☎77-3911 	金明地区 小規模多機能ホーム きんめい 野田町 タ8番地1 ☎74-7401 	山中地区 富士見通りお茶の間さろん 山中温泉 白山町 ノ14番地1 ☎78-2555 	

上記以外の地区においては、市の基幹型地域包括支援センターが担当。

地域包括支援センター 相談実件数

■ 基幹型及びサブセンター(実人数) ■ ブランチ(実人数) ■ 障害(実人数)



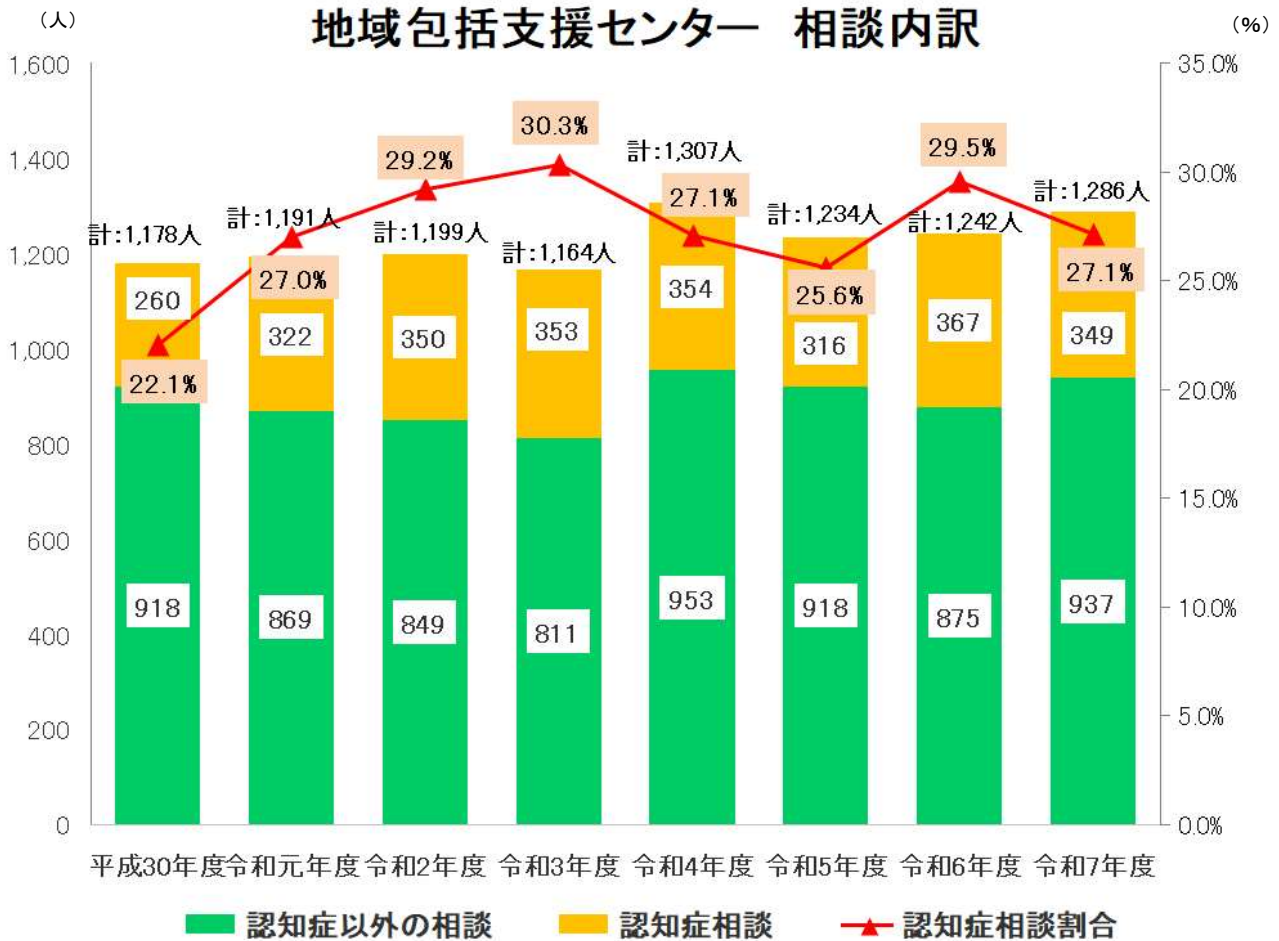
※1:能登半島地震被災者への対応を除く

相談内容の傾向

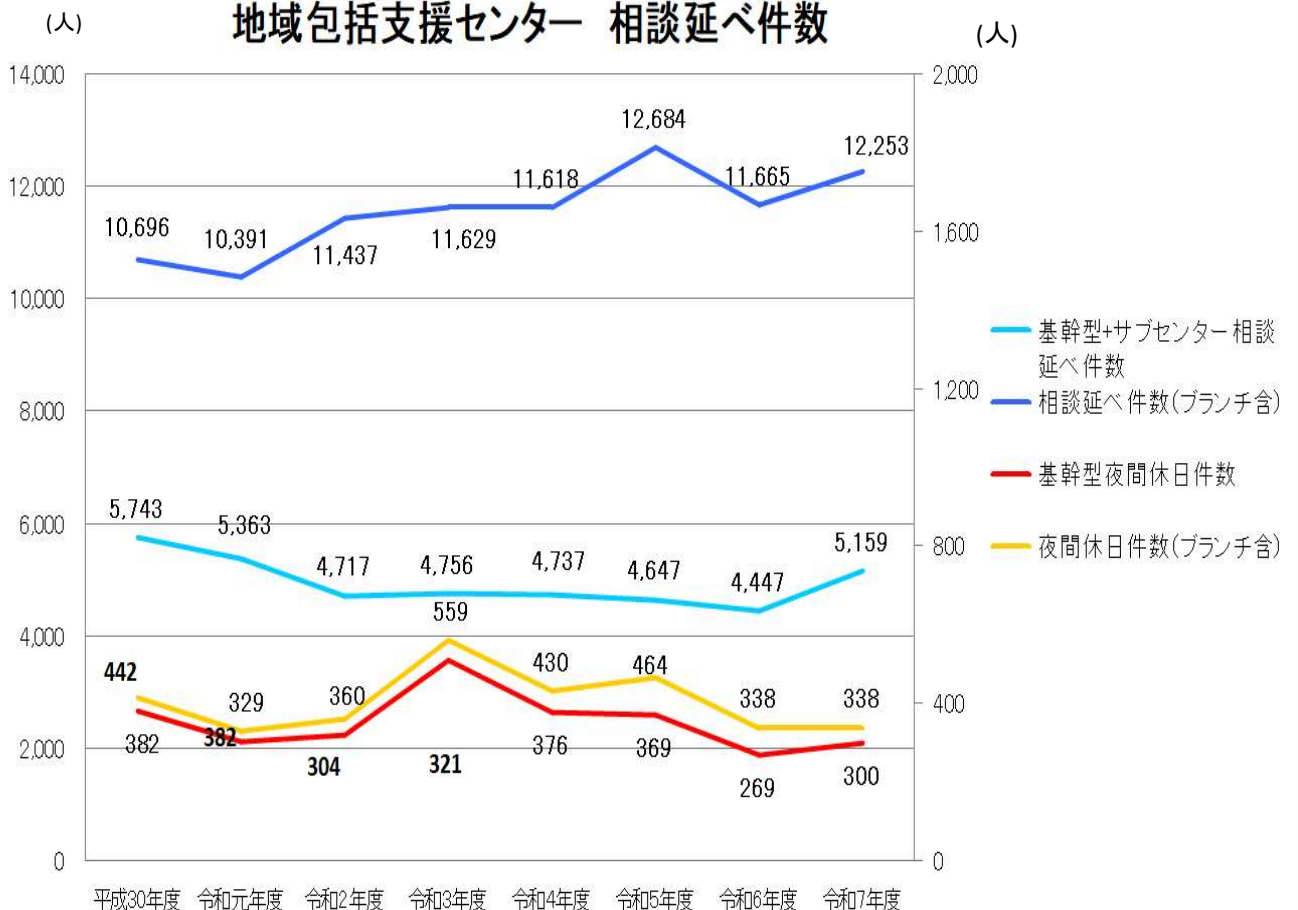
- ・ 認知機能低下が徐々に見られてきた人への支援
- ・ 身寄りがいない方への支援
- ・ 医療につながっていない方への支援
- ・ 65歳未満の方への生活支援の相談
- ・ 世帯に支援を必要とする家族がおり、高齢者のみならず、家族支援が必要なケースが多い。(生活困窮、家族がひきこもりや精神疾患を患っている方など)
- ・ 家族が遠方に住んでいる中、家族が連絡が取れないと安否確認を必要としている方への支援
- ・ 発達障がいや軽度知的障がい等がある方で、年を重ねることによる認知機能が低下してきた方への支援
- ・ 就労支援の必要な方への支援 等



地域包括支援センター 相談内訳

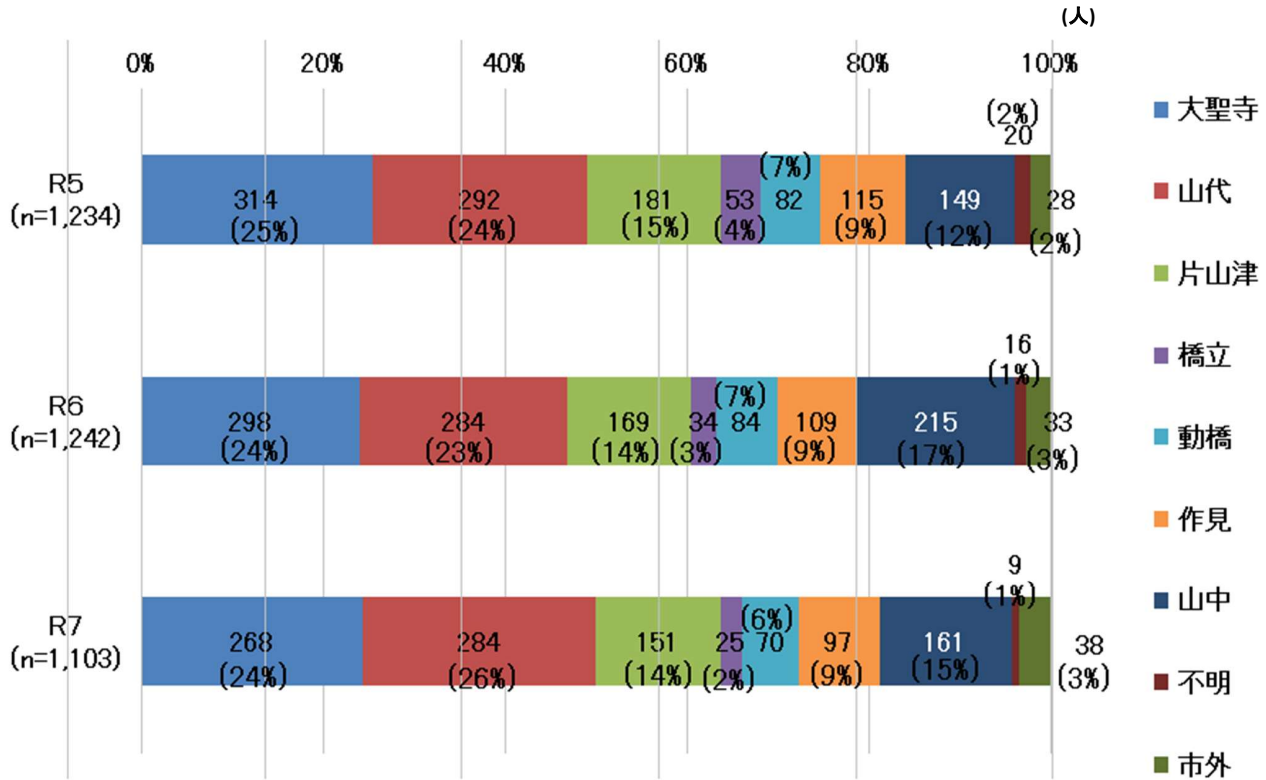


地域包括支援センター 相談延べ件数



※H27より基幹型及びサブセンターの集計

加賀市地域包括支援センター相談圏域別実件数 (ランチ相談件数除く)



令和7年度 地域包括支援センターランチ相談件数(新規実件数)

地区	事業所名	新規相談受付件数 (総数)	地区集計	新規相談受付件数 (包括経由)	地区集計	新規相談受付件数 (ランチ直接受付)	地区集計
大聖寺	大聖寺なでしこの家	69	155	31	80	38	75
	小規模多機能ホームきょうまち	86		49		37	
三木・三谷・塩屋	グループホームまどい	48	48	26	26	22	22
南郷	小規模多機能ホームなんごうえがお	42	42	15	15	27	27
山代	山代すみれの家	104	184	31	80	73	104
	ニーズ対応型小規模多機能ホームききょうが丘	80		49		31	
庄	小規模多機能ホームいらっせ庄	30	30	11	11	19	19
勅使・東谷口	小規模特別養護老人ホームちよくし	23	23	9	9	14	14
片山津	小規模多機能ホームいらっせ湖城	77	77	37	37	40	40
金明	小規模多機能ホームきんめい	39	39	14	14	25	25
橋立	小規模多機能ホームはしたて	32	32	6	6	26	26
動橋	動橋ひまわりの家	69	69	13	13	56	56
分校	小規模多機能ホームいらっせ分校	19	19	9	9	10	10
作見	小規模多機能ホームいらっせ松が丘	44	85	22	34	22	51
	小規模多機能ハウスさくみ	41		12		29	
山中 (温泉、西谷、東谷)	富士見通りお茶の間さろん	93	93	22	22	71	0
合計			896		356	469	

●新規件数の896件のうち、ランチへ直接相談している件数が469件であり、約半数(52.3%)である。

(ランチへ直接相談している件数の割合 R3: 51.6% → R5: 52.9% → R7: 52.3%)

令和7年度 地域包括支援センターブランチ相談件数(延べ)

R7年4月 ～ R8年3月	相談件数(件数を入力)										地域ケア会議 (個別) (件数)	社会資源の 関わり (回数)	研修 連絡会等 (回数)	
	日中(日報合計①)					夜間(日報合計②)								全体 ①+② 合計
	ブランチ	訪問	来所	電話		その他(メール・文書)	訪問	来所	電話					
相談				連絡・調整	相談				連絡・調整					
なでしこの家	198	17	197	341	0	2	0	1	1	0	757	4	4	19
きょうまち	184	16	77	110	1	1	0	2	0	0	391	4	4	19
まどい	152	10	102	101	0	0	0	1	3	0	369	0	0	18
なんごうえがお	93	20	102	147	1	5	1	2	3	0	374	0	23	23
すみれの家	418	69	545	137	2	0	0	5	0	0	1,176	0	407	88
ききょうが丘	293	21	387	91	0	0	0	1	0	0	793	5	54	20
いらっせ庄	67	3	16	49	0	0	0	0	0	0	135	0	6	17
ちよくし	93	12	50	17	0	0	0	1	0	0	173	0	4	4
いらっせ湖城	267	19	112	160	0	0	0	0	0	0	558	0	1	15
きんめい	113	17	51	186	0	0	0	0	0	0	367	0	41	22
はしたて	110	43	89	50	2	0	0	0	0	0	294	2	94	25
ひまわりの家	107	19	120	120	1	0	5	0	0	0	372	0	51	25
いらっせ分校	97	12	30	27	1	0	0	0	0	0	167	0	9	12
いらっせ松が丘	114	8	70	297	6	0	0	1	0	0	496	1	14	22
さくみ	158	20	96	181	7	0	0	0	0	0	462	5	14	47
お茶の間さろん	279	41	145	180	0	0	1	2	0	0	648	0	51	16
合計	2,743	347	2,189	2,194	21	8	7	16	7	0	7,532	21	777	392
日中夜間 別合計	7,494					38								

令和7年度 ブランチ連絡会 実績

開催日	主な内容	参加人数		
		ブランチ	包括	相談支援 専門員
4/9	包括の体制、職員紹介。加賀市医療センター地域連携センターつむぎの紹介。 意見交換「連絡会及び障がい担当との連携ケース報告会について」	22人	5人	1人
6/17	介護支援専門員・相談支援専門員との意見交換会 意見交換「各々の役割を知り、どのような連携をしていくとよいか」	26人	4人	7人
8/6	学習会「事例検討の進め方」 講師：社会福祉法人共友会 岡安 努氏 意見交換「これからの事例検討の進め方について」	22人	4人	1人
10/8	情報共有「加賀市における虐待の実態について」 意見交換「令和7年度ブランチ勉強会(実践編)の取り組みについて」	24人	5人	1人
12/10	振り返り「R7.11.22実施の黒岩氏勉強会振り返り」 実践報告「自事業所での取り組み」 報告者：動橋ひまわりの家 管理者 庄司 美樹子 氏 意見交換「自分自身がこの仕事で大切にしていることは何か」 「どんなこだわりを持ちどんなことを価値観として持っているか」 助言者：全国小規模多機能型居宅介護支援者連絡会 事務局長 山越 孝浩氏	24人	4人	0人
2/4	復命報告「認知症地域支援推進員研修復命、ライフサポートカー交流会in霧島復命」 企画委員報告「ブランチ勉強会(実践編)について」 意見交換「今年度のブランチ活動について」	20人	3人	0人

*上記以外に、月に1回、4圏域ごとでブロック連絡会を開催し、共通協議事項及び事例検討を行っている。
ブロック連絡会での協議事項については、翌月のブランチ連絡会にて報告している。
加賀市内の相談支援専門員・介護支援専門員は、ブランチとの連携のため、ブロック連絡会を中心に参加している。

令和7年度 ブランチ勉強会 実績

	日付	講師	内容	参加人数
1	10/25	講師 一般社団法人なかのま 代表 宮田 隼氏	講演会 「ひきこもり・不登校講演会」 ～生きづらさに寄り添って～	80人 (包括・ブランチ6人含む)
2	11/22	講師 全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 理事長 黒岩 尚文 氏	講演会 「本人の望む暮らしを支えるとは」 ～わたしたちの役割～	21人 (包括・介護福祉課含む)
3	1/21	講師 精神保健福祉士 蔭西 操氏 (石川県認知症介護指導者・石川県南加賀認知症疾患医療センター) 講師 精神保健福祉士 吉岡 夏紀 氏 (石川県認知症介護指導者・社会福祉法人共友会やたの生活支援センター)	面接技術研修会 相談援助の基本姿勢について ・相談支援における「面接」とは何か？ ・面接における「要約」「感情の明確化」「感情の反射」について ・対人援助職として必要不可欠な基本的視点・姿勢 ・ロープレイ	33名 (包括1人含む)

上記以外に
11/20.21開催の地域共生社会推進全国サミットinかがへ参加



面接技術研修会 開催風景

令和7年度 地域福祉コーディネート活動の実績

月報及び統括票より抜粋

地区	事業所名	令和7年度 社会資源との かかわり	共通の取り組み	主な独自取り組み
大聖寺	大聖寺なでしこの家	4回	(顔の見える関係づくり) ・まちづくり推進協議会、民生委員、区長等への挨拶 ・民生委員定例会の参加 ・地域おたししゃサークル・サロンへの参加 ・老人会へ挨拶、老人会行事の参加 ・見守り座談会の参加 ・かがやき予防塾への参加	・ボランティアの会(大聖寺地区おせっ会)の立ち上げ ・元気はつらつ塾の食事会において食生活改善推進員とのコラボ ・元気はつらつ塾参加者や協力員との座談会(三木地区) ・運営推進会議において地区の予防事業の現状についてミニ座談会 ・運営推進会議において、3地区合同の「自分の町にあったらいいな」社会資源の情報共有
	小規模多機能ホームきょうまち	4回		
三木・三谷・塩屋	グループホームまどい	0回		・地区内の回覧板で毎月「えがお通信」を回覧し相談窓口の周知 ・地区の敬老の集いや見守り座談会等に参加 ・南郷町サークルや地区女性部の会合で介護予防講座を毎年開催
南郷	小規模多機能ホームなんごうえがお	23回		・山代地区を良くする会への参加 ・丸山地区のサロン再開に向けた継続支援
山代	山代すみれの家	407回	(ブランジの周知) ・地区まちづくり広報への掲載 (社会資源の把握) ・社会資源マップの作成 ・社会資源情報の一覧表作成 (住民への啓発活動) ・通いの場における感染症予防講座の開催 ・認知症ケアパスの普及活動 (協議体) ・運営推進会議(第2層協議体)の開催 (一体的実施事業) ・ブランジ医療職による通いの場への健康相談の実施	・事業所内(山代すみれの家)でのラジオ体操や茶話会の実施 ・地区民生児童委員定例会や地区見守り座談会へ参加 ・地域共生社会推進全国サミットinかがでの実践報告及びおんせん図書館みかんとのコラボ
	ニーズ対応型小規模多機能ホームききょうが丘	54回		
庄	小規模多機能ホームいらっせ庄	6回		・地区防災訓練、見守り座談会への参加 ・コミュニティスクール活動の一環として、ル・マーク収集仕分け活動を実施
勅使・東谷口	小規模特別養護老人ホームちよくし	4回		・地区見守り座談会、地区社協やまちづくりの総会に参加 ・はまちゃん先生との「介護・健康相談会」の継続開催
片山津	小規模多機能ホームいらっせ湖城	1回		・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業によるサロンへの定期訪問
金明	小規模多機能ホームきんめい	41回		・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業によるサロンへの定期訪問 ・チラシの作成やサークルへ出向き、ブランジの周知 ・美岬町のサロンの立ち上げ協力(町民との話し合い、情報収集の役割分担等)
橋立	小規模多機能ホームはしたて	94回		・地域の声からはしたておでんの会を再開 ・毎月地域広報にてブランジの記事掲載を継続
動橋	動橋ひまわりの家	51回		・隔月、地区民生委員定例会への参加 ・地区社会福祉協議会の会議やまちづくり協議会での話し合いに参加 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業によるサロンへの定期訪問
分校	小規模多機能ホームいらっせ分校	9回		・隔月、地区民生委員定例会への参加 ・地域型元気はつらつ塾立ち上げ後のフォローアップ支援 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業によるサロンへの定期訪問
	小規模多機能ホームいらっせ松が丘	14回		・「高齢者が住みやすい我がまちを話し合う会」の開催継続 ・作見地区区長会総会への参加
作見	小規模多機能ハウスさくみ	14回		・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業によるサロンへの定期訪問
	富士見通りお茶の間さろん	51回		・ゆざやを拠点とした活動の継続支援 ・山中圏域の介護支援専門員との定期的な情報共有(圏域会議の開催年2回) ・令和6年度のアンケートの課題から東谷地区の身近なところでのしゃくなげカフェの開催にむけた話し合い

加賀市地域包括支援センター自己評価 (ブランチ・基幹型地域包括支援センター)

【経緯】

「地域包括支援センター設置運営について」(老老発第1018001号)において地域包括支援センター業務を委託また直営の場合も市がセンターの運営方針を示すことが望ましく、平成28年3月『加賀市地域包括支援センター基本方針・運営方針』を策定。基本方針を自己評価項目に反映した。

【評価目的】

地域包括支援センターブランチ及び地域福祉コーディネート委託業務と基幹型地域包括支援センター業務について、一定の基準にて評価し、その結果を活かしてより良い運営・実践に向けた取組みを推進することを目的とする。

【評価回数】

毎年度1回実施する。

【評価の仕組み】

- (1)運営内容を確認するための基準チェックシート
- (2)事業実施方針を具現化するための実践チェックシート

【評価の流れ】

評価結果に関しては、運営推進会議に諮り、地域住民の意見をもらい改善すべき事項については、業務や取組みに反映していく。

運営内容を確認するための主な内容

(参考)

<ブランチ(16か所)>

①主な基準項目(評価シート1～11)

- ・職員の適正配置(専門職の確保)
- ・提出物の作成と提出状況
- ・緊急時、苦情受付体制整備、個人情報の保護
- ・ネットワーク構築、社会資源の把握と支援
- ・総合相談、介護予防の取組み
- ・中立・公正性の確保

②シートの構成

- ・11項目25設問で全設問「はい」・「いいえ」で回答。
- ・軒下マップ作成数の記載

・上記シート以外に、

一年間の取組み目標・次年度に残った課題等を記載した「統括表」も、自己評価として位置づけ

<基幹型地域包括支援センター>

①主な基準項目(評価シート12～15)

- ・認知症高齢者支援、権利擁護、マネジメント支援
- ・ブランチとの連携と支援

16事業所の統括表から見える、各ブランチの取り組みと評価

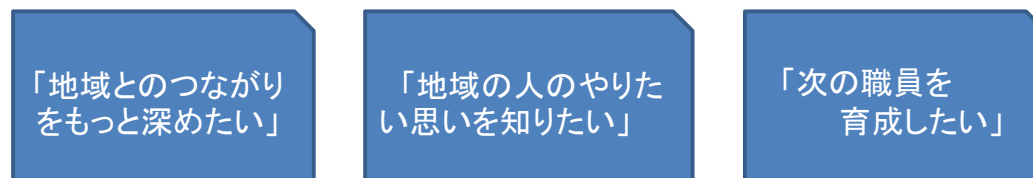
出来ている取り組み・良かった取り組み	評価
①ブランチ職員の相談対応力の向上や訪問スキル向上に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所において、同行訪問や基本チェックリスト訪問、電話対応、記録入力などを通じ、職員が段階的にブランチ業務を習得できる体制づくりが進められていた。特に、2人体制での訪問や基幹型地域包括支援センター職員との同行訪問により、経験の浅い職員の不安軽減や実践的な学びにつながっていることが評価できる。 ・一方で、相談対応や訪問対応が一部の職員が実施している事業所もあり、今後は事例検討や事業所内での勉強会を継続しながら、職員の対応力向上を図っていく必要がある。
② 通いの場(サロンや地域おたっしやサークル等)の地域活動へ参加し、地域とのつながりづくりを行う取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おたっしやサークルやサロン、元気はつらつ塾等へ継続的に参加することで、地域住民との顔の見える関係づくりや、気になる方の把握につながっていた。 ・ブランチ職員が地域へ出向き地域ニーズの把握に努め多面的な支援にもつながっている。今後は、複数の職員が地域活動に関われる体制づくりや、継続的な関係づくりに向けた工夫が必要である。
③ 地域への周知活動や関係機関との連携を深める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や民生委員の定例会、老人会、防災訓練等へブランチとして積極的に参加し、ブランチの周知や関係機関との連携づくりに取り組んでいた。 ・継続的な顔出しにより、民生委員や地域住民から直接相談や情報提供を受けられる関係性が構築されつつあり、地域における身近な相談窓口としての認知度向上につながっていることが評価できる。
④ 高齢者の介護予防と保健事業の一体的実施事業を通じた健康づくりへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランチ医療職を中心とした健康相談や健康講座の実施により、地域住民が気軽に健康について相談できる機会を提供できている。 ・住民からも賛同や肯定的な声が聞かれており、地域における健康不安の早期把握や受診勧奨につながっていることが評価できる。
⑤通いの場において、継続に向けた課題把握への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おたっしやサークルやサロンの参加者の高齢化や参加人数の減少、担い手不足、移動手段等、通いの場の継続に関する課題把握が丁寧に行われ、通いの場の必要性や重要性についても確認していた。 ・住民や老人会、民生委員等から直接意見を聞き取り、地域の実情を把握しようとする姿勢が見られることから、引き続き、課題把握に努めていく。

16事業所の統括表から見える、各ブランチの次年度に残った課題・改善計画

【多かった課題(統括表より抜粋)】

・「顔見知りが増えたが、地域の実情をまだ知らない」「地域おたっしやサークルやサロンへ継続的に出向けていない」「地域の方の声を聞く機会が少ない」「複雑なケースが多く対応に苦慮」

……………次年度の取り組みとして多かった意見として……………



今後の取り組み

●「早めの出会い」「地域資源の把握」等についての企画を再整理。

▶ブランチ活動を効果的に展開するためPDCAサイクルを整理する。

●第10期介護保険事業計画策定時において持続可能な相談体制のあり方を検討

▶これまでの強みを活かし、基幹型地域包括支援センターとしての業務整理に取り組む。また、これからの地域課題解決に向け、実施方針を見直し、計画に位置付ける。

地区地域ケア会議を通じた「個から出発する地域づくり」の取り組みへ

プランチ

令和7年度 運営内容を確認するための基準チェックシート/評価シート

参考資料

地区	庄地区	勅使・東谷口地区	片山津地区	金明地区	橋立地区
地区	庄地区	勅使・東谷口地区	片山津地区	金明地区	橋立地区
チェック項目	いらっせ庄	ちやくし	いらっせ湖城	きんめい	はしたて
1. 職員の適任状況	はい	はい	はい	はい	はい
・プランチ業務実施項目に示す職員を0.5人以上以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して1週年平均1日3時間の業務の実施）	はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要員の育成と配置状況	はい	はい	はい	はい	いいえ
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している	はい	はい	はい	はい	いいえ
3. 専門性の確保	はい	はい	はい	はい	はい
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている	はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている	はい	はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の対応体制	はい	はい	はい	はい	はい
・夜間・休日・緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようになっている	はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情対応体制の整備	はい	はい	はい	はい	はい
・苦情受付担当者・責任者・第3者委員を利用者にわかるように表示している	はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している	はい	はい	はい	はい	はい
6. 個人情報保護の確保	はい	はい	はい	はい	はい
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている	はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している	はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談室等を設置している	はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築	はい	いいえ	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するに当たり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている	はい	いいえ	はい	はい	はい
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめていく	はい	はい	はい	はい	はい
8. 総合相談	はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談の案件数が、75歳以上の高齢者数の割合である	はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談案件数のうちプランチ訪問案件数が、50%程度（同行含む）ある	はい	いいえ	はい	はい	はい
・総合相談案件数のうち訪問案件数が、30%以上	はい	はい	はい	はい	はい
・プランチへの直接相談件数が、開始時より増加している	はい	はい	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上ある【作成数： 件】	はい（40件）	いいえ（16件）	はい（71件）	はい（63件）	はい（55件）
・プランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関に十分な支援を行っている	はい	はい	はい	はい	はい
9. 介護予防	はい	はい	はい	はい	はい
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見通しについて説明している	はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）	はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広域連携の推進と実施	はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、プランチの所在や役割等を広域している	はい	はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の増進や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる	はい	はい	はい	はい	はい
・プランチ及び地域福祉コーディネーター業務として取り組む内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）	はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保	はい	はい	はい	はい	はい
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている	はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。	はい	はい	はい	はい	はい

プランチ

令和7年度 運営内容を確認するための基準チェックシート/評価シート

参考資料

チェック項目	動橋地区		作見地区		山中地区
	動橋ひまわりの家	いらっせ分校	いらっせ松が丘	さくみ	お茶の間さろん
1. 職員の適任状況	はい	はい	はい	はい	はい
・プランチと業務要項に示す職員数0.5人以上を配置している（相談・会議・社会資源の虫除きの業務に対して1週年平均1日3時間の業務の実施）					
2. 必要員の育成と配置状況	いいえ	はい	はい	はい	はい
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している					
3. 専門性の確保	はい	はい	はい	はい	はい
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている					
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている					
4. 緊急時の対応体制	はい	はい	はい	はい	はい
・夜間・休日・緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようになっている（連絡網の整備含む）					
5. 苦情対応体制の整備	はい	はい	はい	はい	はい
・苦情受付担当者・責任者・第3者委員を利用者にわかるように表示している					
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している					
6. 個人情報保護の確保	はい	はい	はい	はい	はい
・利用者に關する記録の適切な保管が定めている					
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している					
・利用者のプライバシーを確保できる相談窓口を設置している					
7. ネットワークの構築	はい	はい	いいえ	はい	いいえ
・地域ケア会議を開催するに当たり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている					
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめていく					
8. 総合相談	はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談の案件数が、75歳以上の高齢者数の割程度ある					
・総合相談案件数のうちプランチ訪問案件数が、50%程度（同行含む）ある					
・総合相談案件数のうち訪問案件数が、30%以上					
・プランチへの直接相談件数が、開始時より増加している					
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上ある【作成数： 件】					
・プランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関に十分な支援を行っている					
9. 介護予防	はい	はい	はい	はい	はい
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見通しについて説明している					
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）					
10. 地域への広域連携の推進と実施	はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、プランチの所在や役割等を広域している					
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の増進や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる					
・プランチ及び地域福祉コーディネーター業務として取り組む内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）					
11. 中立・公正性の確保	はい	はい	はい	はい	はい
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている					
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。					

令和7年度 加賀市ランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱

1. 地域包括ケアシステム構築の方針
2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
5. 地域福祉コーディネート業務について

ランチ名	大聖寺地区高齢者こころまちなセンター大聖寺なでしこの家
施設管理者	北村 洋子
事業責任者	上出 季代子
ランチ設置年月	平成27年10月

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・慈恵会の理念「和顔愛語」のもと、大聖寺地区こころまちなセンターとしてランチ・コーディネーターの役割をしっかりと自覚して身近な相談窓口としての事業所をめざす。 ・地域住民から気軽に相談できる事業所、信頼できる事業所でありたい。 ・助け合い支え合うことの重要性、繋がりや輪の大切さを広めて住みやすい町づくりを目指す。
------	---

改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のかかやき予防塾修了生の人達から声があがったボランティアの会の立ち上げに向けて話し合いを開催した。住民の方の思いを確認した上で各自出来る範囲で活動内容の記入をして頂き、困っている住民の方がいた場合に住民の方の活動内容が合致した時に繋いでいくこととなる。 ・きょうまちランチとも情報共有を行い、1月に進捗状況についての話し合いを行う予定。又、元氣はつらつ塾での食事開催に向けて、食生活改善推進員協議会と元氣はつらつ塾の担当者、ランチが顔を合わせ話し合いを開催し、10月上旬に元氣はつらつ塾にて初めての食生活改善推進員による講演会等を開催することが出来た。
---------------------	--

今年度の目標 ①	<p>今年度の目標 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ①きょうまちランチと一緒にボランティアの会の立ち上げに向けて話し合いを重ね、地域住民の困りごとに対して力になれる住民の方が活動することが出来るようランチの応援団となって頂けるよう取り組んでいく。 ②元氣はつらつ塾での食事会の時に食生活改善推進協議会の人達が協力しコラボすることが出来るよう活動を行っていく。
----------	--

改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの会(大聖寺地区おせつ会)を立ち上げる為に話し合いの場を設けたが、なかなか支援の合致するケースがなく実績に繋げることが出来なかつた。その為、内容を修正し、ゴミ捨ての支援を主にしながら活動継続に向けて取り組みを行ってきた。 ・地域の馴染みの店などへ大聖寺地区おせつ会のランチ配りを行い周知活動を行った。 ・12月の運営推進会議でも活動報告を行った。
---------------------	--

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員活動において、作見地区と片山津地区は活発に活動を行っており話を頂けて良かったと思っている。 ・ボランティアをする時は一人より二人、三人でする方が心強い。 ・定期的な集まりがあるといい。 ・周知も大事だが、登録者を増やした方がいいのでは無いが、食改の作見地区と片山津地区は活発に活動を行っており、話を頂けて良かったと思っている。 ・大聖寺地区おせつ会の集まりになかなか繋げるケースがないので、ゴミ捨ての支援に絞る活動を行った方がいいのではないか。
----	---

次年度に残った課題・改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ①大聖寺地区おせつ会のメンバーと定期的に話し合いを重ねつつ、困っている方と大聖寺地区おせつ会のメンバーとのマッチングが、1件でもつながり、必要とされる取り組みへと定着していく。 ②元氣はつらつ塾において、昨年に引き続き、食生活改善推進員による食事会の開催を行うことが出来る。 ③ランチ活動に参加している職員は限られている為に、新たに職員の育成を行っていく。
----------------	--

今年度の目標 ②	<p>今年度の目標 ②</p>
----------	-----------------

改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	<p>10月</p> <p>3月</p>
---------------------	----------------------

意見	
----	--

次年度に残った課題・改善計画	
----------------	--

令和7年度 加賀市ランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じた重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーデイネーター業務について

<table border="1"> <tr> <td>プランチ名</td> <td>大聖寺地区高齢者こころまちセンターきょうまち</td> </tr> <tr> <td>施設管理者</td> <td>西田 佳枝</td> </tr> <tr> <td>事業責任者</td> <td>伊藤 将淑</td> </tr> <tr> <td>プランチ設置年月</td> <td>平成28年10月</td> </tr> </table>	プランチ名	大聖寺地区高齢者こころまちセンターきょうまち	施設管理者	西田 佳枝	事業責任者	伊藤 将淑	プランチ設置年月	平成28年10月	<p>『自分のため、誰かのために、持てる力を発揮できる町 大聖寺』を目指して、地域で活動されている方達(近所の高齢者、サロンやサークルの活動者、民生委員、ボランティア、ケアバス副団員)との接点を持ち、ランチ事業所と関係を構築していく。きょうまちスタッフ全員が地域で活動されている方達から認めてもらえるように、まずは挨拶を積極的に行っていく、町のどこで見かけても声を掛けあえる仲間作りをしていきたいと考えている。</p>
プランチ名	大聖寺地区高齢者こころまちセンターきょうまち								
施設管理者	西田 佳枝								
事業責任者	伊藤 将淑								
プランチ設置年月	平成28年10月								
<p>目指す姿</p>									

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
<p>①かがやき予防塾卒業生の集まりでちよこつとボランティアの活動を大聖寺でもできないか計画の中で話を進めていく。</p>	<p>・7月に大聖寺地区のかがやき予防塾卒業生や大聖寺なでこの家ランチと話し合いを行い、「大聖寺地区おせっかい」というちよこつとボランティアの会を立ち上げることができた。</p>	<p>・3ヶ月くらいに1回程度、定期的は大聖寺地区おせっかいのメンバーとともに進捗状況を話し合う事ができた。</p>	<p>・ランチメンバーでもそのような会がある事を知らなかった。 ・情報を共有する機会がなかった。 ・大聖寺地区の課題を上げてはどうか。 などの意見がでた。</p>	<p>①ボランティアの種類(ゴミ出し)に限定して募ってはどうかと意見があり、ゴミ出しで困っている人がいた場合に大聖寺地区おせっかいのメンバーとマッチングしていく。</p>

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
<p>②大聖寺なでこの家ランチと一緒に、昨年度の相談の分析シートや相談内容から現状を出し、地域住民に伝える機会を作る。地域住民と一緒に課題を出し、自分達の町が高齢者や障がい者にも住みやすい町となるために、あったらいい資源などを考える会を開催する。住民から出てきた意見から次の計画を考える。</p>	<p>・元氣はつらつ藝において、食生活改善推進員と一緒に何かできないかという話になり、8/8に食生活改善推進員と話し合いを行い、10/6に元氣はつらつ藝で食生活改善推進員による食に関する講義を行うことができた。</p>	<p>・住民からの意見を聞く場が開くことができなかった。ランチ相談の中でも話はできなかった。</p>	<p>・ランチメンバーの中でも活動を分かっていたいなかった。 ・大聖寺の課題を上げてはどうか。 といった意見が上がった。</p>	<p>①定期的は大聖寺なでこの家ランチと情報共有する場を設け、大聖寺地区の課題を整理しながら、大聖寺地区にとってあったらいい社会資源を考えていく。</p>

令和7年度 加賀市ブランチ評価 統括表

(参考)地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーディネーター業務について

ブランチ名	三木・三谷・堀屋地区高齢者こころまるセンター クラゲホームまじい
施設管理者	岡島 進
事業責任者	岡島 進
ブランチ設置年月	令和3年10月
目指す姿	(三木地区)山間部から買い物や受診をする際に、共通の悩みを抱えている人達と行きも帰りも乗り合いタクシーの活用が出来る地区 (三谷地区)歳を重ねても気持ち若く元気な暮らしが出来る地区 (堀屋地区)若い世代を超えた交流を継続し、安心して生活し続ける事が出来る地区

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
<p>【地域福祉コーディネーターの活動、周知を発信し、地区の強み、個々の持っている力を再発見する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の地域おたっしやサークルに向き、サークル担当者や参加者と交流の機会をもつ。 ・サークル内から相談したい事や普段困っている事があればお聞きする。 ・サークルリーダーや民生委員へ参加協力依頼をし、運営推進会議や集まりの場でサークル活動の紹介や悩み等を発信出来る場を作れないか検討する。 ・3地区の年間行事予定を把握し、地域住民が集まる機会に、出張ブランチ相談窓口が出来ないか公民館長に提案をしてみる。 	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おたっしやサークルへ向く事は3地区とも達成出来ていない。堀屋地区でのブランチ相談案件の中で地域の住民の協力を得た際に、地域おたっしやサークルのリーダーというケースがあったが、おたっしやの活動の場ではなかったため、交流は出来なかった。 ・元氣はつらつらとの開催時間、曜日の把握は出ていないが、社協への打診、サークルへの打診の段階が出来ていない事や達成出来ない原因が分からない。打診後に意向アンケートを出張ブランチ相談窓口に出向く事とした。 ・出張ブランチ相談窓口に関して、堀屋地区の公民館屋上に打診を行った結果、町の行事の中に相談場所を設けても良いという返事を頂くことが出来た。具体的な行事や開催時間については決まっていない。 	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おたっしやサークルへの参加は出来ず交流が出来なかった。はつらつ塾の担当者(3地区共)と接点を持ち、参加者の状況の確認や、新規利用者の紹介を行う事が出来ている。地区ごとの活動状況の確認をし、新規利用者への紹介時に、どんな取り組みをしているかをお伝えする事は出来ている。 ・運営推進会議に、継続的に3地区の民生委員が集まっていただいている。共通の悩みや傾向として男性が集まりにくい事、声をかけても参加に興味がない事が上げられていた。3地区合同のため、もう少し会話内容を広げる事が出来るのと良いと感じた。 ・出張ブランチ相談に関して、事業所の体制的に準備出来ておらず計画的に実施する事が難しくなった。 	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堀屋地区より <ul style="list-style-type: none"> ・地区の祭り、文化祭の際に足を運んでいただいていたが、はつらつ塾の担当(仮)を割り当てし、おたっしやサークルや元氣はつらつ塾へ訪問出来ないかを検討したい。 ・運営推進会議の機会を活用して、会議終了後に1地区毎に、目指す姿のすり合わせや、地域の座談会、地区毎に、自指す姿の把握の機会として地域ケア会議の開催企画を検討したい。 (次年度の目標) <ul style="list-style-type: none"> ①地区毎の目指す姿の振り返りを行い、新たなニーズに気づくことが出来る体制作りと顔の見える関係を継続する。 	<p>次年度に残った課題・改善計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年の振り返りから、3地区に均等に届く事が出来ていないと感じ、その部分の改善をするために、エリア毎に担当者(仮)を割り当てし、おたっしやサークルや元氣はつらつ塾へ訪問出来ないかを検討したい。 ・運営推進会議の機会を活用して、会議終了後に1地区毎に、目指す姿のすり合わせや、地域の座談会、地区毎に、自指す姿の把握の機会として地域ケア会議の開催企画を検討したい。 (次年度の目標) <ul style="list-style-type: none"> ①地区毎の目指す姿の振り返りを行い、新たなニーズに気づくことが出来る体制作りと顔の見える関係を継続する。

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
<p>【前年度のスタッフ育成を継続し、どのスタッフも事業責任者を担える心構えを作る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの負担を軽減する ・当日の電話相談当番を決める ・介護予防基本チェックリスト訪問に挑戦し、何が手が把握する ・相談票、書類作成の模擬訓練をする ・同法人のブランチ業務に携わるメンバーと相互に業務についての工夫、不安、コツを情報共有の機会を作るために、事業責任者同士で意識を立てる ・限られた時間を有効にし、業務改善に取り組み ・事業所内、外に相談出来る仲間を作る ・関わったケースの振り返り、事例を作る ・ブランチ連絡会に参加する機会を作る 	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に同法人の事業責任者に協力をいただき、お互いの事業所の取り組み方や工夫について情報共有する事が出来た。現時点では双方のやり取りは薄いと感じている。 ・相談票、基本情報のお手本を作成出来たが、まだ作成して間もないため効果は把握出来ていない。一度作成して終了ではなく、改良しながら進めて行きたい。 ・スタッフの不安を解消しつつ取り組めるようブランチ会議を下半期に実施していきたい。 ・ケース事例を振り返る事、ブランチ連絡会からの事例提出に関しては、現時点では準備が出来ておらず、まずは事業所内で事例検討会をしていく必要があると感じた。 	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したマニュアルを見ながら書類作成をした事で、これまでよりも安心して作成が出来た事や、修正する時間の短縮につながっている。ただ、ブランチの業務に関する不安は継続してある事も実践チェックシートを通じて把握する事が出来た。答えや正解を急ぎ過ぎている傾向もあると感じた。 ・ブランチ連絡会への新たなメンバー参加の促進は、体制が準備出来なかったため出来なかった事までや、至らなかつたケースも含めて経過を知る機会が持てれば良いと思つた。事業所内での取り組みは、スタッフ会議で時間の捻出を試みたが、うまく調整が出来なかつた。 	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3地区より <ul style="list-style-type: none"> ・委託業務で新たに就ける事もある中、介護をしながら相談を聞いて回る事はとても大変な事だと思つた。トップに荷がかかりすぎて、離職につながる可能性がある。無理のかからない育成計画と、交流の機会を持つてみてはどうか。 	<p>次年度に残った課題・改善計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護業務をしつつ、新たに考える事(事例やブランチ連絡会への参加等が増える事でスタッフの精神的負担を多くかけてしまつていたと感じた。まずは、事業所の中で、自分たちの困りごとを解決するためのきっかけとして事例の共有を計画したい。 ・ブランチ業務全般について、生産性の向上を図る事が出来る部分の確認と、次々と新しい事を進めるのではなく、立ち止まって振り返りや事業所内で相談出来る時間を捻出していきたい。 (次年度の目標) <ul style="list-style-type: none"> ①ブランチ業務で自分たちの困り事を軽減するために、どのような方法があるかの作業会議を行う。

令和7年度 加賀市ランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーディネート業務について

ランチ名	南郷地区高齢者こころまちセンターなんごうえがわ
施設管理者	南出 明子
事業責任者	花沢 祥子
ランチ設置年月	平成28年 10月

目指す姿	『安心して暮らしていく為に、家族のように1つの輪になる』 そのためには、地域との関係作りでランチの存在を知ってもらおう活動や、地区の皆さんが集まれる場所作りに取り組んでいく
------	---

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①介護予防の視点をもつ大切さと介護サービス利用に至る状態の理解を広めていく取組みや活動を月1回は行う	<p>・毎月発行している「えがお通信」に元気があつたらしく勤い開催のお知らせを掲載し、全戸に回覧版として回していただくことを継続している</p> <p>・毎年春に南郷町地域おたっしやサークルで介護予防に関する話しをする機会があり今年度も開催できた。その中で、見かけなくしたり、気になる様子があれば早めに相談していただくと早期対応が可能となり、結果介護予防に繋がると説明できた。</p> <p>・6月に地区民生委員から介護保険に関する説明の依頼があり、その中で「どのようないやうなタイミングで相談したらよいのか?」という質問があり、地区の暮らしの特徴とそれに伴う相談傾向を併せて説明し、気になった時点で相談いただくことが介護予防に繋がるとも説明できた。</p>	<p>・10月は認知症キャラバンメイト活動に合わせ地域おたっしやサークルで「わたしの暮らし手帳」記載に合わせ認知症予防につながる日頃の規則正しい生活や周囲との関わりが介護予防につながることを話してきた。</p> <p>・下半期2回に分けて、地区女性部の会合で介護予防に関する話が出来た。認知症に関する心が高く、予防策の質問があったが病気で「やる力」は残っていることが多く、馴染みの関係性により安心につながり持っている力を発揮でき、自宅で生活できる時間の説明もできた。</p>	<p>・毎月発行され回覧版として回っている「えがお通信」を見ている人が多く、聞かれたときにはランチで紹介している。施設のある場所も知られているので気軽にいけると思う</p> <p>・地域おたっしやサークル活動や老人会の新病参加者は殆どなく、リーダー交代もなかなか出来ない。なるべく参加してもらえようように企画を工夫している。</p> <p>・地域の介護専門職から、いろいろ話してもらえるところ「あの人に相談すればいい」とわかりやすくしてほしいと思う</p>	<p>・地区課題の抽出や課題に対する取組みはほとんど出来ていないという結果になっており、地域ケア会議の開催も出来ていない。年度の後半から、身体機能は維持できているが認知機能低下がみられ介護サービス利用希望の相談件数が増えており、介護予防に加え、認知症の理解を深める活動も必要に感じました。相談が集中することが多く、対応まで時間を増やすことも必要に感じました。</p> <p>・すべてに取組むことは現在の職員体制では困難であるため、目標として</p> <p>①介護予防の視点をもち大切さと認知症の理解を深める活動を月1回は行う。 ②新規相談の対応ができる職員を増やす</p>

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		

令和7年度 加賀市ブランチャ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステム構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じた重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーディネートネットワーク業務について

ブランチャ名	山代高齢者こころまちセンター 山代すみれの家
施設管理者	古井 正美
事業責任者	平岡 春美
ブランチャ設置年月	平成27年9月

目指す姿

山代という地域の中に根付いた事業所になる事で、「相談しやすい場所」として位置づけられている。どのような方法であれ、自分たちが直接関わったり、出掛けたりしなくても、多くの人たちとつながりを持つ事業所となり、自然と地域の問題、課題、楽しい事、嬉しい事、素晴らしい事、素晴らしい事、素晴らしい事、素晴らしい事などいろいろな情報が舞い込んでくる事業所でありたい。その中で「人と人をつなぎ合わせる場所」になれるよう努める。

今年度の目標 ①	①丸山クラブ及び喫茶店などに入入りし、直にもっと住民の声を聴く機会を多く持つ。その中で「私の暮らし手帳」を活かせるように意見を聴き、広めていきたい。丸山クラブだけでなく、もう一カ所進めたい。
改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	10月 ・認知症ケアバス検討会に参加したり、直接的講習会に参加し、周知をしようとした。しかし「私の暮らし手帳」に対する認識は低いと感じている。手帳のポリエニュームが大きい事も書き辛さを感じている。これからも「書きたい場所」「書けるところ」を見つけて示していきたい。 ・プランチャ訪問時に、自身の情報を記載してある手帳を見せている。事
意見	・すみれの家の地域運営推進委員であることから、丸山町の相談が増え、委員からも困った時に相談できるところができたので心強いと言っている。丸山クラブに顔出して欲しい、という意見も多かった。 ・手書きで記載してある「暮らしの手帳」を見せても、手帳自体がページ数が多い事で、本人・家族とも難しいと思うのが、積極的に書きたいとは思わない。今年度ブックリストと一緒に「私の暮らし手帳」を送っているが、ほとんど反響がない。この手帳は「書けない、わからない」という言葉が多い。
次年度に残った課題・改善計画	①丸山クラブの活動への参加、およびクラブの方々と交流は、すみれの家の業務と重なり今年もできずに終わった。また、丸山クラブの委員との連絡をほましているが、活動内容を把握できていない。毎回の参加は困難でも、必要時に参加できるよう次年度は委員と連絡をとり、丸山町民にとって頼りになるように、開催時に②1区が一昨年からは敬老会を始めたので、開催時には参加し、より身近な存在となれるようお願い。③現在プランチャ担当者も固定されており、意見や考え方が固執してきていると感じる。次年度はプランチャ訪問のできる職員を1名増やす努力をす。かわり方や見方ももっと幅広くなると思われる。

今年度の目標 ②	①すみれの家にラジオ体操に来る人が1人数で固定化されている為、もっと広く参加を呼び掛ける方法を考える。及び地域の人たちや相談者に会いながら、意識してできる介護予防の方法を考えていく。
改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	10月 ・3区の見学にラジオ体操のチャリジェが来た。近所にポスティングして来ている人が誘ってくれた件もあり、少しずつはあるが、ラジオ体操の人数も増えてきている。一日7、8名の時もあり、すみれの家自体活気が出て来た。 ・毎月茶話会も行ない、しゃべる事人と関わる事、体を動かす事などが介護予防に通じていると、地域の皆さんの姿や様子を見て感じられる。
意見	・地区会館・児童館にラジオ体操のチャリジェが来た。近所にポスティングして来ている人が誘ってくれた件もあり、少しずつはあるが、ラジオ体操の人数も増えてきている。一日7、8名の時もあり、すみれの家自体活気が出て来た。 ・毎月茶話会も行ない、しゃべる事人と関わる事、体を動かす事などが介護予防に通じていると、地域の皆さんの姿や様子を見て感じられる。
次年度に残った課題・改善計画	①すみれの家にラジオ体操のチャリジェが来た。近所にポスティングして来ている人が誘ってくれた件もあり、少しずつはあるが、ラジオ体操の人数も増えてきている。一日7、8名の時もあり、すみれの家自体活気が出て来た。 ・毎月茶話会も行ない、しゃべる事人と関わる事、体を動かす事などが介護予防に通じていると、地域の皆さんの姿や様子を見て感じられる。

今年度の目標 ②	①すみれの家にラジオ体操に来る人が1人数で固定化されている為、もっと広く参加を呼び掛ける方法を考える。及び地域の人たちや相談者に会いながら、意識してできる介護予防の方法を考えていく。
改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	10月 ・3区の見学にラジオ体操のチャリジェが来た。近所にポスティングして来ている人が誘ってくれた件もあり、少しずつはあるが、ラジオ体操の人数も増えてきている。一日7、8名の時もあり、すみれの家自体活気が出て来た。 ・毎月茶話会も行ない、しゃべる事人と関わる事、体を動かす事などが介護予防に通じていると、地域の皆さんの姿や様子を見て感じられる。
意見	・地区会館・児童館にラジオ体操のチャリジェが来た。近所にポスティングして来ている人が誘ってくれた件もあり、少しずつはあるが、ラジオ体操の人数も増えてきている。一日7、8名の時もあり、すみれの家自体活気が出て来た。 ・毎月茶話会も行ない、しゃべる事人と関わる事、体を動かす事などが介護予防に通じていると、地域の皆さんの姿や様子を見て感じられる。
次年度に残った課題・改善計画	①すみれの家にラジオ体操のチャリジェが来た。近所にポスティングして来ている人が誘ってくれた件もあり、少しずつはあるが、ラジオ体操の人数も増えてきている。一日7、8名の時もあり、すみれの家自体活気が出て来た。 ・毎月茶話会も行ない、しゃべる事人と関わる事、体を動かす事などが介護予防に通じていると、地域の皆さんの姿や様子を見て感じられる。

今年度の目標 ②	①すみれの家にラジオ体操に来る人が1人数で固定化されている為、もっと広く参加を呼び掛ける方法を考える。及び地域の人たちや相談者に会いながら、意識してできる介護予防の方法を考えていく。
改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	3月 ・すみれの家の管轄外の方からの問い合わせがあったので、管轄外の方に伝わりやすいよう、地区会館・児童館に茶話会のチャリジェを設置してもらった。 ・近所の方々がラジオ体操のポスティングを継続していった。 ・ラジオ体操に来るきっかけの一つとなるように、頭の体操ドリルを自由に持ち帰ってもらっている。ドリルがあることにつながっている。 ・介護予防しようという意識が楽しみにつながっている。
意見	・地区会館・児童館にラジオ体操のチャリジェが来た。近所にポスティングして来ている人が誘ってくれた件もあり、少しずつはあるが、ラジオ体操の人数も増えてきている。一日7、8名の時もあり、すみれの家自体活気が出て来た。 ・毎月茶話会も行ない、しゃべる事人と関わる事、体を動かす事などが介護予防に通じていると、地域の皆さんの姿や様子を見て感じられる。
次年度に残った課題・改善計画	①すみれの家にラジオ体操のチャリジェが来た。近所にポスティングして来ている人が誘ってくれた件もあり、少しずつはあるが、ラジオ体操の人数も増えてきている。一日7、8名の時もあり、すみれの家自体活気が出て来た。 ・毎月茶話会も行ない、しゃべる事人と関わる事、体を動かす事などが介護予防に通じていると、地域の皆さんの姿や様子を見て感じられる。

令和7年度 加賀市ブランチ評価 統括表

(参考)地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーディネート業務について

ブランチ名	山代地区高齢者こころまちセンターききょうが丘
施設管理者	中野 英里
事業責任者	中野 英里
ブランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	・山代地区の為に何かしたいと意欲のある住民が地域で活躍できるよう、一緒に取り組んでいきたいと思います。山代の人たちがここに住んで良かったと思えるような街づくりを住民と共に目指していき、できることから一歩に頑張っていきたいと思います。 ・いつまでもどんなとさも立ち寄りやすいブランチ事業所として身近な地域に存在し続けられるよう、みんなに優しく明るく安心できる場所になります。
------	---

改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	10月 ・山代での防災訓練や賞湯湯祭り、山代小学校でのふれあい講座に参加した。今までの経験上ブランチの存在は民生委員や区長、介護の相手をした方以外には知らないという実感があり、まずは地域の方に知ってもらおう事を目的に行事に出向いた。 ・共生社会という流れの中で、幅広い世代でブランチがつかない限り、ブランチ主体ではない地域の一部として活動を行えることが必要ではないかと思われ、1回のかかわりで顔見知りになっただけでは言い足りないが、今後継続して地域に出て様々な世代の地域住民との顔見知りを作っていく。
意見	・民生委員 身内等の頼れる人がいない方の話を聞きに行っている。話を聞くだけで安心されているが自分が民生委員を辞めたらどうなるのかなと思う、そのような方はまだまだ居ると思う。来年度も地区での行事を考えているのでその時は声をかけます。 ・地域住民① 近所の人も年を取って生活の状況が変わってきている。周りとあまり交流のない人も居るだろう。そのような方がブランチさんをつなけるといいと思うが、ゴミを捨てに行かないという話はよく聞く。地区や場所によってゴミ捨ての決まりことは違うようだ。
次年度に残った課題・改善計画	①顔見知りになっただけで地域の方に会うために地域に出かけ、その方の活動や出かけた場所の利用の仕方、行事等の実際を知る。行事等の特別なことだけでなく、生活の一部であるゴミ捨てや総湯等についても実際の様子を知る機会を持っていく。 ②顔見知りの方に会いに行く。地域での日常的な活動を見たり触れたりして実際に知っていく。

今年度の目標 ①	今年度の目標 ① 高齢・介護に限らない様々な地域での活動に参加し、その場にいる人とつながる。
----------	---

改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	3月 ・年度後半も山代地区を良くする会や民生委員定期会に参加できた。 ・昨年度に比べて顔見知りが増えたのではないかと、一方、職員から「まだまだ地域のことを知らない」という意見もある。地域おたしやサークル活動の名前やコミニティセンターの場所等を知っている人も実際に地域の方がどのようになっているのかわからないということがある。このことが職員にとっても相談業務や地域福祉コーディネート活動の難しさの一つになっているのかもかもしれないと感じた。
意見	・民生委員 身内等の頼れる人がいない方の話を聞きに行っている。話を聞くだけで安心されているが自分が民生委員を辞めたらどうなるのかなと思う、そのような方はまだまだ居ると思う。来年度も地区での行事を考えているのでその時は声をかけます。 ・地域住民① 近所の人も年を取って生活の状況が変わってきている。周りとあまり交流のない人も居るだろう。そのような方がブランチさんをつなけるといいと思うが、ゴミを捨てに行かないという話はよく聞く。地区や場所によってゴミ捨ての決まりことは違うようだ。
次年度に残った課題・改善計画	①顔見知りになっただけで地域の方に会うために地域に出かけ、その方の活動や出かけた場所の利用の仕方、行事等の実際を知る。行事等の特別なことだけでなく、生活の一部であるゴミ捨てや総湯等についても実際の様子を知る機会を持っていく。 ②顔見知りの方に会いに行く。地域での日常的な活動を見たり触れたりして実際に知っていく。

今年度の目標 ②	今年度の目標 ② 改善計画に対する具体的な取り組み・経緯
----------	---------------------------------

改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	10月 ・山代での防災訓練や賞湯湯祭り、山代小学校でのふれあい講座に参加した。今までの経験上ブランチの存在は民生委員や区長、介護の相手をした方以外には知らないという実感があり、まずは地域の方に知ってもらおう事を目的に行事に出向いた。 ・共生社会という流れの中で、幅広い世代でブランチがつかない限り、ブランチ主体ではない地域の一部として活動を行えることが必要ではないかと思われ、1回のかかわりで顔見知りになっただけでは言い足りないが、今後継続して地域に出て様々な世代の地域住民との顔見知りを作っていく。
意見	・民生委員 身内等の頼れる人がいない方の話を聞きに行っている。話を聞くだけで安心されているが自分が民生委員を辞めたらどうなるのかなと思う、そのような方はまだまだ居ると思う。来年度も地区での行事を考えているのでその時は声をかけます。 ・地域住民① 近所の人も年を取って生活の状況が変わってきている。周りとあまり交流のない人も居るだろう。そのような方がブランチさんをつなけるといいと思うが、ゴミを捨てに行かないという話はよく聞く。地区や場所によってゴミ捨ての決まりことは違うようだ。
次年度に残った課題・改善計画	①顔見知りになっただけで地域の方に会うために地域に出かけ、その方の活動や出かけた場所の利用の仕方、行事等の実際を知る。行事等の特別なことだけでなく、生活の一部であるゴミ捨てや総湯等についても実際の様子を知る機会を持っていく。 ②顔見知りの方に会いに行く。地域での日常的な活動を見たり触れたりして実際に知っていく。

今年度の目標 ②	今年度の目標 ② 改善計画に対する具体的な取り組み・経緯
----------	---------------------------------

令和7年度 加賀市ブランチャ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱

1. 地域包括ケアシステムの構築方針
2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
5. 地域福祉コーディネート業務について

ブランチャ名	庄地区高齢者こころまちセンター いらっせ庄
施設管理者	梅林 輝男
事業責任者	安田 知世
ブランチャ設置年月	平成29年10月

目指す姿	「誰でも困っていたら助け合えるまちづくり」
------	-----------------------

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①小学校のカリキュラムにベルマーク作業をいれてもらえるように先生に声をかけておく。1学期に1回は行えるようにお願いしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み明けに小学校に出席してベルマーク活動の声掛けを行なった。担当の先生や校長先生も変わっており、4月に声掛けを行なったことがお忘れになっていた。再度の声掛けで冬休み前に行うことになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期末にベルマーク活動を行なった。地域の方も来てくれた。その後も継続してくれる人もおられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での活動や担当の先生や校長先生がかわっていったため、以前のようににはできなかったが、地域の方に来てくれていたのはいいことだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1学期に1回行うことを小学校にも再度お願いしていく(先生のなかでも情報の共有ができていないことがあるので年初めに時間をとる約束を年度末には行う)

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①子供食堂という形にこだわらず住民同士の間でなにかを一緒にするという形にできないか? 考えていく。文化祭の場で何かできないか? 元氣はつらつ塾との協働も考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も文化祭でベルマーク活動を行なった。元氣はつらつ塾にも声をかけていたが具体的な声掛けには空っぽなかつたため、来年度に向けて声をかけていく。介護に関して何かできればいいなと元氣はつらつ塾担当者と話していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の他事業所の巻き込み方を4月の運営推進会議で意見をもらつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルマークの活動はなかなかできないから、別の事で活動できないかも考えてみたいという意見はないかな? 	<ul style="list-style-type: none"> ①他事業所とはあまり交流も持っていないので、今後積極的に連携を取っていく。

令和7年度 加賀市ランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーディネートネットワーク業務について

ランチ名	勅使・東谷口地区高齢者こころまちセンター 小規模特養ちよくし
施設管理者	中野 裕紀
事業責任者	岡安 真知恵
ランチ設置年月	平成31年1月

目指す姿	勅使地区・田畑などの役割を続けながら、交流の機会を通じて健康に対する意識が高まるまちづくり 東谷口地区・健康に対する意識の高さを活かし、誰もが集える居場所のあるまちづくり
------	--

今年度の目標 ①	<p>*地域福祉コーディネートについて ①地域型元氣はつらつ塾に顔を出し、参加者の様子を確認する。協力員、運営事業所のスタッフにも情報を出し、声をかけていく。 ②勅使、東谷口地区の会合、地域の店舗等に顔を出し、ランチの周知を行い、職員の様子を覚えてもらう。 ③勅使・東谷口地区の社会福祉協議会、見守り座談会、民生員等の会合等への参加の際、事業所の運営推進会議の際等、地域住民からどのようなニーズや課題があるか確認する。出てきた課題についてランチとしてどのような支援ができるか考え一緒に取り組んでいく。 ④勅使地区健康相談室の濱田医師に地域住民に向けて健康について話をしていただく機会を設けられないか、働きかけをしていく。</p>
----------	--

改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	<p>10月 ・4月に勅使地区健康相談室に出向くことができ、濱田医師に健康について話をしていただく機会を設けられなかったか確認した。濱田医師からは、依頼があれば出来る事、返事をしたい。また詳しく煮詰めることができたいないためすすめていく。 ・5月には勅使地区社会福祉協議会総会に参加し、地域の情報を得る事ができた。10月8日に元氣はつらつ塾の運営推進会議に参加し、地域の情報を得る事ができた。10月の特養の運営推進会議に参加していきいいる。</p>
意見	<p>(民生委員の)担当が変わり、一人で地域の方の所に出向くのは心配なので一緒に行ってほしい。 ・地域の方からの困りごとに対しての返事がすぐに出てきないので、相談ののって欲しい。</p>
次年度に残った課題・改善計画	<p>①勅使地区の健康相談室に毎回出向き、濱田医師と一緒に相談を受け付け、地域のことを話す機会を継続する。 ②民生委員とも連絡をとり、ランチの役割を伝えて一緒に訪問したりしながら支え合っていく。</p>

今年度の目標 ②	<p>*訪問対応ができる職員の育成について ①地域型元氣はつらつ塾、地域のサロン、サークルへの参加を行い、活動内容、介護予防について理解する。 ②実際の相談内容について事例検討を行う。 ③実際に事業責任者と同行訪問を行う。 ④軒下マップの見直し・追記を行い、事業所全体で地域のことを理解・共有する。</p>
----------	---

改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	<p>10月 ・6月に異動があり、訪問対応する職員が2名になった。 ・元氣はつらつ塾への参加がなかなかできておらず、今後、参加できるようにしていきたい。 ・プロック連絡会で事例検討を行い、ほかの方の意見をもつ機会をつくれた。</p>
意見	<p>・地域で気になる方の情報を聞いた。ランチで対応をお願いしたい方からは不明だが、場合により対応してほしい。</p>
次年度に残った課題・改善計画	<p>①職員の異動により、訪問対応の経験がある職員が3名になった。電話で受け付けた内容を担当者につなぐことばできており、引き続き、訪問対応できる職員の育成は行っていく。 ②元氣はつらつ塾へ出向き、参加者の声を聞いていく。</p>

令和7年度 加賀市ブランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱

1. 地域包括ケアシステムの構築方針
2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
5. 地域福祉コーディネート業務について

ブランチ名	いらっせ湖城
施設管理者	九谷 かおり
事業責任者	村上 弘樹
ブランチ設置年月	平成27年7月
目指す姿	隣近所が顔見知りになり、見守り助け合いのできる関係になる。

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①新規相談が出来る職員をもう一人育てる。 ②昨年度育成した職員は一人での新規相談の回数を増やし必要な支援に繋ぐなど対応できるように育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・新規相談は職員との同行訪問できていないが、介護予防基本本エッセツクリストハイリスク者訪問を職員同行で行った。今後も継続し、速う職員とも同行訪問していく。 ・ブランチのパソコンをさわったことがない新入職員にも操作ができるようマニュアルを更新した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規相談は職員との同行訪問はできなかつたが、新規相談受付時に電話対応できるように、受付表を採用し、受付はどの職員でもできるようにした。 ・介護予防基本本エッセツクリストハイリスク者訪問は職員同行で5度行くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランチとはどのような業務なのかわからない ・昨年度ブランチ業務に関わっていた職員が移動や退職により業務から離れた ・あちらこちらに入職した職員や小規模多機能に異動になった職員への育成が不十分に感じる ・同行訪問はできたがシステムへの入力や軒下マップ等の記載等は今後でもできるように教育が必要と感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ①ブランチ業務の対応ができる職員を育てる。 ②ブランチ研修会の棉点編や、面接技術研修を受けたい職員がいれば参加できるように勤務など調整をし、年間10回以上を目標に、介護予防基本本エッセツクリスト訪問と相談業務に職員が同行訪問し、ブランチ業務に関わっていく。

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①サロン(チャットとおいで間)の参加者だった方に再開の希望があるが確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リリーダーにお話を伺ったところ、高齢になり体力的に難しくなったとのことだった。 ・参加されていた方々からは、再開すれば参加するが個々に忙しくされたり、体調が悪い、介護が必要な方や入院している方もいる、近所の方が色々連れて行ってくださるとの意見が聞かれた。 ・一度リリーダーや参加者と話し合いの場を設けるとの話が出たが、参加者より「今はなくて良い」と意見があり、再開希望者ができてきたら話し合いをおこなうこととなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にてサロンについて現状を伺った。地域の方とお話しした際、既存のサロンも高齢化が進み、以前より参加者が減り今は20人にも満たないことがあるとお話しがあった。 ・地域のサロンや元気はつらつ塾に顔を出すことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休止になったサロンの再開はできなかつたが、今後再開の声が上がれば地域に返して行く。 ・地域に出ている職員が限られており、出向く機会も作ることができていない。 ・地域の各方の声を聴く機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①サロンや地域との関わりを月に一度は持つようにし、1～15日間の話や相談等しやすい関係の構築する。 ②関わりのあるサロン等に出向き、地域で多い介護申請の事由を説明し、介護予防を促す。

令和7年度 加賀市ランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーデイネーター業務について

ランチ名	金明地区高齢者こころまちセンター きんめい
施設管理者	西 邦子
事業責任者	西 邦子
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	
------	--

病院、店が少なく不便だが、隣近所の繋がりが強い。お互い助け合いこれまで通りの暮らしが出来る町に!!!
 ・8町全てに「集う場」があり、ちよっとした相談が出来る場がある。
 ・身近な相談窓口として、地域の中で支援を必要とする人々を把握し生活課題の早期発見に努める。

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①各町のサロンや、元気はつらつ塾に一体的事業での参加も含めできる限り参加している(参加するスタッフを決める事で顔見知りになっっているが、相談される所まで至っていない) ②町の老人ボランティア機能の周知・定着を目的に、元気はつらつ塾やサロンに月1回出向くとするが、活動しているスタッフは夜勤も持っている事から日程調整が難しい。そこでランチ活動を行うスタッフを1名増やし、地域へ出る機会を確保する。	・各サロンや元気はつらつ塾に月1回参加できない時があった。 ・サロンや元気はつらつ塾参加者の死亡や入所等により参加者の減少が目立つ。 ・元気はつらつ塾協働員との話し合いから、気になる方は話し合いの音が聞かれる一方で、協働員自身いまままで続けられる心配しているが楽しんでいられる様子。 ・元気はつらつ塾で初めてはどうかとの意見は、お茶会から初めようかとの意見が聞かれた。 ・元気はつらつ塾では協働員と参加者がそれほど会話する機会がないが、お茶会等の時間があれば、会話できる時間確保でき、いろんな話ができるのではないかとこの事。	・各サロンや元気はつらつ塾への参加は、月1回参加できない時があった。 ・サロンや元気はつらつ塾参加者の死亡や入所等により参加者の減少が目立つ。 ・元気はつらつ塾協働員との話し合いから、気になる方は話し合いの音が聞かれる一方で、協働員自身いまままで続けられる心配しているが楽しんでいられる様子。 ・元気はつらつ塾で初めてはどうかとの意見は、お茶会から初めようかとの意見が聞かれた。 ・元気はつらつ塾では協働員と参加者がそれほど会話する機会がないが、お茶会等の時間があれば、会話できる時間確保でき、いろんな話ができるのではないかとこの事。	・元気はつらつ塾やサロンに参加している時は、周りの目があり相談はしにくいと思う。 ・協働員としては、きんめいの人が声をかけてくれるので小さい事でも伝える事ができる。 ・きんめいプラランチの人か来てくれるのは知っているが、西さん以外はあまり知らない。 ・きんめいプラランチの人も話す機会を持つ為に、お茶会があるというかも、お茶会があるというかも、きんめいプラランチが相談のつてくれるところと理解している人は少ないと思う。民生委員や区長の経験があれば知っていると。	次年度に残った課題・改善計画 ①きんめいスタッフが元気はつらつ塾の協働員やサロン等の参加者と顔見知りになり相談しやすい関係作りの為に、サロンや元気はつらつ塾への参加は継続する。 ②サロンや元気はつらつ塾に参加するだけでは状況判断が難しい為、他の方向からアクシジョンする必要がある。そこで介護予防基本子エックリストハイリスクリスク者については1回限りの訪問が多く、その後のフォローが難しい。介護予防基本子エックリストハイリスクリスク者が相談になる場合もある事から、子エックリストハイリスクリスク訪問の際事業所行事の案内をおこない、継続した関わりを目指す。 ③介護予防基本子エックリストハイリスクリスク訪問で気になった人については、ホワイトボードに記載し、訪問が必要と判断した場合は再度訪問を行う。
今年度の目標 ① ①美押町の相談件数については、令和5年度の新規相談件数37件中110件で令和6年度新規相談件数28件中9件であった。美押町は千崎町と大島町に分かれており割合が多い(ちなみに塩浜町は7件) ②美押町にはサロン等がなく、予防の観点から早めに出会う機会が必要だと思いが、そのような機会が少なく、住民と早めに出会う機会として、美押町の活動に参加し、住民が必要ならサロン等の立ち上げの後方支援を行うと目標を立てたが、中心になっっている方の体調不良により活動は止まっている。次年度についても美押町の課題を把握し、取り組んでいく。	・現在美押町の相談件数は6件。 ・はつらつ塾や子エックリストで出会う美押町の住民に、町でのサロンの必要性をお聞きすると、「町民会館は坂があつて歩いていくには、行きにくい」「知り合い同士が家に集まっっている」等の話が聞かれる。 ・サロンの必要性については、老人会の会長にも話を聞いてみる。	・新規相談者39名中美押町の相談件数は7件。 ・美押町の老人会の会長には、話を聞いていないが、元片山津地区民生委員長(美押町在住)から意見を聞いたところ、美押町でのサロンは難しい。「世話する人がいない事と地形的に町民会館は坂があり、なかなか歩いて来にくい」との事。	・町のサロンや健康クラブは、老人会や町の役の人が積極的に動かないと出来ないし、継続も難しい。 ・サロンをやっているところはどこどこ？(塩浜町・磯原町) ・はつらつ塾があるからいいと思う。 ・美押町のことはわからない。	次年度に残った課題・改善計画 ①美押町の住民とは、元気はつらつ塾や事業所行事のミヤノ屋「おでんの会」で初めてお会いした方もおり、話をする機会があった。公民館を使う体操やおしゃべりする機会をお聞きするが、何人かで家に集まっておしゃべりしているのが、何人かで家に集まっておしゃべりしている所なので必要性を感じないとの事。集まっている所を把握し、訪問が必要と判断した場合は再度訪問を行う。

令和7年度 加賀市ランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱

1. 地域包括ケアシステムの構築方針
2. 区域ごとのニーズに応じた重点的に行うべき業務の方針
3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
5. 地域福祉コーディネート業務について

ランチ名	橋立地区高齢者こころまちセンター	はしたて
施設管理者	鹿野 久美	
事業責任者	道端 由香里	
ランチ設置年月	平成27年9月	

目指す姿

遠い親戚より近くの住民~ちよこし不便利かもしれないけど、安心がある町！橋立~
 ●人と人、人と場のつながりが途切れず、途切れている場合は結びなおし、つながっていない場合は新たに近づき、更には次世代へつなげていくこととで、年齢や障書の有無に関わらず、安心して暮らせる町づくりを地域の人と一緒に取り組みます。
 ●まずは、地域の人に気軽に「ねえ、ねえ、ねえ、姉ちゃん、兄ちゃん、ちよこと、ちよこ」と相談してもらええる関係づくりを目指します。

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①スタッフが地域の方との顔見知りや関係や気軽に声をかけられる関係性を築けるように橋立地区で開催されるお祭りや催し物に参加したり、地域型元氣はつらつ塾や各町のサロン、サークルには1回、区長会や民生委員定例会、見守りネットワークには年1回の参加を目指す。 ②町民が目につくやすい町民会館などにポスターを掲示してもらえらるように各町の区長にお願しいし地域のの方の周知に努める。	・スタッフが地域に出向くことはできていないが、固定のスタッフがサークルや地域型元氣はつらつ塾に参加した。参加できているサークルもあつた為、今後は他のスタッフもサークルや地域型元氣はつらつ塾に参加できるように予定を組むようにする。 ・敬老の集いでランチの紹介を住民に行い周知に努めた。 ・地域から見守りネットワークの参加や加賀市総合防災訓練の会議の参加の声かけがあり参加した。今後も地区会館に顔を出し声かけしてもらえらるように関係を深めていく。 ・はしたてでランチのポスターは春に各町の区長にお願しいし町の掲示板などに掲示してもらっている。	・民生委員の定例会に参加したり、見守りネットワークや個別避難計画ごちゃまぜ研修会に参加し地域の方と意見交換を行った。 ・サロンや地域おたつしゃサークルに出向かず気軽に話し合える関係性までには至らず各ニーズの把握に至らなかつた。出向いていないスタッフもおでんの会に來た地域の方と交流し関係を深めている。	・おでんの会にたくさん地域の方が来ているし、それだけ地域に浸透しているという事。 ・一人暮らしの人もいるし集まれる場所が必要だと思つた。サークルやZIBA工房(昆布巻き)もあるが、いつでも行けて集まれる、そういう場所があればさみしい人にはいいのかなと思う。 ・介護が必要な人の情報はどう共有し、目を光らせていくかを考えていかなければいけないと思う。 ・電子ゲームも導入してみてもいいか。 ・事業所の人と地域の人とか集まるのも輪が広がつてよいのでは。 ・雲田さんが良ければ集まってる場で相談できると頼れるところになるかなという事がわかつた。 ・高齢者のことも大事なことが子供のことも含めた取り組みで何か町としてできないか？ ・ひとりカフェ作り作ることもなかなかない。大きい鍋で作ると美味しいよね	①地域の催し物や区長会、民生委員の定例会、見守りネットワークなどの話し合いにも参加しながら各地域おたつしゃサークル、サロンに出向く頻度を高め、気軽に話し合える関係性を築くと共に各地域のニーズや個別のニーズの把握が出来ることを目指す。 ②高齢者に限らない多世代、世帯まるごと支援へのアプローチとして、地区会館・住民と協働でカレの会を開催する。

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		

令和7年度 加賀市ボランティア評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱

1. 地域包括ケアシステムの構築方針
2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
5. 地域福祉コーディネーター業務について

ブランチ名 動橋地区高齢者こころまちセンター 動橋心まわりの家	地域住民同士が助け合えるまちづくり。 地域住民→動橋地区(ご近所・サークルやサロン仲間・友人・預金講習会)+小規模多機能ひまわりの家 助け合う→互助の精神・持ちつ持たれつ・助け合い組織・自治体や関係機関の助け合い
施設管理者 住司 美樹子	目指す姿
事業責任者 船見 美紀	
ブランチ設置年月 平成27年9月	

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①地域のサロンへ全職員が、年度内に1回以上顔出しする	・今年度、事業責任者、事業所ケアマネがかかわり、サロンを知ることから始め、各サロンの顔出しすることができた。サロンのみならず、地域の研修会の参加や、事業所で行っているサロンについて、職員が積極的に参加する様子がかかえる。 ・一体的実施の取り組みとしても、看護師中心にサロンへの顔出しできている。 ・他職員の参加も、増やしていけるように計画的にすすめる	・職員体制が充実したことで、相談対応の迅速さや関係機関とのつながり、サロン活動や訪問支援などを通じて、地域との関係づくりや個別支援は着実に進んでいると評価できる。 ・特に住民からの相談に対して、速やかに対応できる体制や、民生委員をはじめとした関係機関との継続的な関わり、サロン活動を通じた顔の見える関係づくり、さらには社会資源を活用し本人の強みを引き出す支援など、実績の積み重ねが見られている。	・地域全体とのつながりの広がりがみられる一方で、対象者の偏り(サロン参加者・女性中心など)がみられる。 ①本人とご家族の意向の相違への対応、関係機関との連携の実践性・社会資源のさらなる活用と開拓などに課題が見られる	

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①介護予防基本チエックリスト訪問へ、新たに職員3名が携わることができるようにする。	・介護予防基本チエックリスト訪問開始までに、ボランティア業務について、ミーティングなどで話す機会を設け、振り返りと再確認を行った。訪問の在り方を確認することで、新規訪問対応へもつなげ、職員2名が新規訪問できるようになった。 ・介護予防基本チエックリスト訪問が始まっつから、事業責任者が中心となり、担当をわけ計画的に訪問できるようすすめている。可能であれば職員2名で訪問し、記録まで一連の流れをマスターできるよつにと考えている。 ・今年度も1名チエックリスト訪問に携わることができるようにすすめている	・新規訪問には先輩職員と同行訪問し、対象者への声かけやアセスメントをその場で習得できるようにした。訪問回数をごなすうちに介護予防基本チエックリストの確認に留まらず本人の意向をくみ取った支援の方向性を示せるよつになつてきた。 ・単独で訪問する場合は、軽微な案件から担当するよつとしている。 ・訪問可能な職員が増えたことで特定の職員への業務集中が緩和されよつ丁寧な初期対応ができた。	民生委員より ・ひまわりの家が介入することで民生委員の負担が少なくなつた。以前は何か問題があると民生委員に連絡が入り大変だつた。 地域住民より ・独居男性の孤独死が多いよつに感じる。町内の方でも自宅に車があるか等が所在確認している。こちらは心配していても相手から発信してくれることがない。	①残り1名が訪問できるように体制を整え、今回新規で訪問できるようになつた職員についてはよつ複雑な課題への対応ができるよつフォローアップしていく。

令和7年度 加賀市ブランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーデイネイト業務について

ブランチ名	分校地区高齢者こころまちセンター いらっせ分校
施設管理者	村上 弘樹
事業責任者	瀬戸 絵理佳
ブランチ設置年月	平成29年10月
目指す姿	いつでも気軽に相談できる町

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	意見	次年度に残った課題・改善計画
①事業所内でのブランチ研修会の実施、職員会議でのブランチ相談内容の報告などを通じて相談対応が出来る職員を増やすことができる	10月 ・朝のミーティングや月1回の職員会議の時にブランチの相談内容や対応内容を職員に説明している。 ・ミーティングや職員会議でブランチの相談内容・対応内容を職員に説明する事は続けている。しかし、相談対応できる職員を増やすことはできていない。	・人材育成に関しては、今年度も進展せず、従事できる職員を育てる事が出来なかった。 ・事業所内でブランチ・コーデイネイト業務の理解等の基本的内容で勉強会をしたらどうか。 ・個別地域ケア会議は対象者がおらず開催できなかったが、対象者がいれば開催したい。	①作見動橋地区ブロック連絡会に管理者・事業責任者以外の職員が参加し、事例検討会に参加する。また、介護予防基本チェックリスト訪問時に、未経験の職員も同行することで、さらに同行訪問を通じ基本チェックリスト訪問ができる職員を1人増やす。 ②介護予防基本チェックリスト訪問を通し、社会資源の把握や、住民への介護予防のアプローチの仕方についての学びをいく。

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯	意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月 ・8月に一体的実施事業を稲宮町のオリープの会で実施した。 ・分校町のいきいきサロンからは篠苗の会などの行事時に利用者のお誘いも継続し、いか来るようになってきている。	・地域に関して年々関係が深まっていると感じる。サロンからのお誘いがあったが、当日の職員不足で参加できないこともあった。	①分校地区のサロンや地域おたっしやサークルへ年4回以上の定期訪問を行い、「高齢者こころまちセンター(プランナ)」としての相談窓口を周知する。

令和7年度 加賀市ブランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーディネート業務について

ブランチ名	作見地区高齢者こころまちセンター いらっせ松が丘
施設管理者	浜田 紀子
事業責任者	小林 百合江
ブランチ設置年月	平成28年9月

目指す姿

住み慣れた地域で安心して暮らせるように
 「助け合える関係性・自分自身の健康づくり・場所とのつながり」を作り、「一人一人がつつながり、もしもの時にも備えておける地域」となる

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①ブランチ業務の理解を深めるため、初期相談や継続訪問に職員の同行、電話対応やパソコン入力など説明し関わっていただけるようにする。 ②介護予防基本チェックリスト訪問は全職員で関わる。電話を受けた職員が日報の記載を行う。 ③介護保険申請の流れについて勉強会を実施する。	・訪問時の同行や電話対応、パソコン入力も一部の職員は行えるようになり、日報も記入できるようになり、今後申請手続きの流れなどの勉強会も出来るようにしていく。	・電話対応や同行訪問は出来るが一部の職員のみとなっており、日報の記入や申請の流れの説明など勉強会で引き続き行っていく。	・可能な範囲でブランチに関わる職員を増やしていく。 ・他の職員も参加できるようにしていく。 ・勉強会については、訪問の同行時に分らないところは聞いていく。	①ブランチ業務に携わる職員を増やし初期・継続訪問に積極的に携われるようにしていく。 ②介護申請の流れの勉強会もミーティング時に設ける。 ③全職員で関われるよう報告連絡をわかるようにしていく。

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①地域のサークルやサロンに出向く職員は限定しているが、顔の見え関係作りをしてもらい、他の職員が出向いても入りやすいようにする。 ・松が丘おたっしや会での一体的実施事業を並行して行う。 ・麻雀同好会も継続的に行われている。 ・山田町やおき健康クラブ継続参加。 ・松が丘健康クラブ参加。	・一体的実施事業を並行しているため、出向く職員への参加は出来ているが、出向く職員が限定されているため、他の職員も出向けるようしていく。 ・麻雀同好会も継続的に行われている。人数が限られている為増員の声掛けをしていく。	・決まった職員のみが出向いているため、シフトを調整し他の職員も参加できるように配慮していく。 ・一体的実施事業を並行し看護師も出来る限り参加できるように配置していく。	①地域おたっしやサークルやサロンに出向いていけるような配慮、一体的実施事業を並行して行えるよう看護師を配置し参加できるようにする。 (山田町やおき健康クラブ参加、ボランティアグループの把握、麻雀同好会の再開)	

令和7年度 加賀市ブラランチ評価 統括表

(参考) 地域包括支援センター運営方針における事業実施方針の5本柱
 1. 地域包括ケアシステムの構築方針
 2. 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針
 3. 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク構築の方針
 4. 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針
 5. 地域福祉コーディネートネットワーク業務について

ブラランチ名	作見地区高齢者こころまちセンターさくみ
施設管理者	横倉ゆか
事業責任者	山口紀久代
ブラランチ設置年月	H28年10月
目指す姿	一人一人がつながり もしもの時にも備えておける地区

今年度の目標 ①	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①地域密着型として、地域を支える為、小規模業務、ブラランチ業務を365日対応している。ブラランチ業務に対し、職員が自信を持って対応出来るように相談業務等と同行や事例検討を行い、職員の自信がつくような働きをする。 ②相談者が安心して相談が出来る職員を1名以上増えるように務めていく。	・職員がブラランチ業務の相談やコーディネート業務を理解する為、ブラランチ勉強会の企画委員やプロック連絡会の事例検討の事例を出すなど精力的に参加している。 ・相談業務は同行訪問、チェックリスト訪問は2人が勤務体制から訪問件数は少ない。	・相談業務の同行訪問は上半期よりも多く行くことが出来、相談後の業務対応も同行職員が行った。 ・チェックリスト訪問に行くため、事業責任者を率先して行ってきている。 ・相談の同行訪問、チェックリスト訪問は2人体制で行っている。訪問への苦手意識や対応への不安がある為、2人体制で行うことで補える部分が多くなり継続していく。 ・事業所内での事例検討などはまだできていない。	・二人体制とは市役所と同行なのか？同事業所内の職員と二人体制なのか？→困難ケースであれば市役所との同行訪問することがあるが基本事業所内の職員で行っている。 ・小規模業務もある中で時間を作って相談を受けるのは大変だと思う。 ・またブラランチという言葉も地区ごころまちセンターも浸透していないような気がする。 ・市民も自分事にならないとブラランチの存在を気にすることは無いと思う。	①ブラランチの書類については、新規職員もいるため、改めて書類の種類や記載方法なども内部研修として取り入れていく。 ②プロック連絡会で行っている事例検討も年2回は担当しているため、担当後、内部研修として事業所内でも検討し、職員の知識向上や事業所内の成長にもつなげていく。そのため訪問は2人体制を継続していく。

今年度の目標 ②	改善計画に対する具体的な取り組み・経緯		意見	次年度に残った課題・改善計画
	10月	3月		
①感染予防対策も含め、一部のブラランチ職員は通いの場に参加する機会がなかった。 ②社会資源の再構築を含め、地域おたっしやサークル、サロン、元氣はつらつ塾などに参加し、通いの場の活動の再確認や住民との再構築を行う。職員の職員にも活動内容や通いの場の説明が出来るように可視化していく。	・地域おたっしやサークルへの参加は各町出来ている。回数も少ないため、また住民との再構築まではしていない。 ・一体的実施事業は地域おたっしやサークル訪問時、同事業所看護師にささいな健康相談だけと、できたことが良かった。*と住民から声が聞かれた。 ・職員からは地域おたっしやサークルに参加することで、地域住民と関わる事ができた、という感想が聞かれた。	・2町の地域おたっしやサークルへは一体的実施事業の健康講座を行うなど参加は出来ている。また健康状態が心配な方へは受診を促すなど健康指導も行った。 ・他の地域おたっしやサークルに職員が参加し交流を深めることは上半期のようには出来ていないため、関係の再構築はできていない。 ・地区の元氣はつらつ塾には他の職員が参加することから出来ない。はつらつ塾の雰囲気でも掴めるようにしていきたい。	・元氣はつらつ塾に住職員は来ていたが、今後ちよつと顔出すだけではだめなのか。 ・地域おたっしやサークルにもブラランチ職員が参加していたので交流という意味ではよいと思う。 ・若い人が参加することで元氣にもなる。	①前年度の目標に掲げていた「作見地区元氣はつらつ塾に参加する。」が出来ていない為、今年度は事業所職員が元氣はつらつ塾に参加する。 ②各町の地域おたっしやサークルに参加し、ブラランチの周知や関係構築が出来るように働きかけは継続していく。一体的実施事業の健康相談も地域おたっしやサークルに参加することで周知していく。 ③総会や集会があれば、参加出来るものには参加し、ブラランチの周知を行うっていくことでブラランチの直接相談が増えるようにしていく。

